

【目的】循環器領域での CT 検査は非常に多く、治療支援等で活躍する場も多岐にわたる。近年、CT 装置に搭載されている逐次近似再構成法により「ノイズ低減」、「アーチファクトの抑制」が可能となり、画質の向上が期待されている。しかし、当院の CT 装置には搭載されておらず、ノイズの多い症例に対しては読影に困難を要する場合もある。逐次近似再構成法の出来ない当院のCTでも、DICOM フォーマットの元画像からノイズの広がりを表示したノイズマップを作成し、それを元画像から差分することで CT 画像のノイズを低減できる software を使用することで、ノイズ低減が可能であり、また臨床の有用性を検討した。【方法】医用画像解析ワークステーション AZE VirtualPlace iNoir を使用し、original、iNoir50、iNoir100 での NPS および SD を計測し、臨床画像での評価も行った。【結果および考察】本来、CT装置を更新することでよりノイズの少ない画像が得られることは周知のことである。しかし、今回検討したソフトを使用することでオフラインであったが、最新の装置でなくとも十分なノイズ低減が図られ、臨床上有用であった。今後、CT 装置搭載の逐次近似再構成法を使用することによる被ばく低減に合わせ、ソフトを併用することで、更なる診断能の向上を期待したい。